

令和 6 年度
福島県 大学生と集落の協働による地域活性化事業
大学生の力を活用した集落復興支援事業
田村市船引町長外路行政区業務実施報告書

獨協大学地域活性化プロジェクト長外路チーム

指導教員 経済学部国際環境経済学科 米山 昌幸

[目次]	ページ
1. はじめに.....	1
2. 田村市船引町長外路行政区の概要.....	1
2.1. 長外路行政区の位置	
2.2. 田村市船引町美山地区の歴史	
2.3. 田村市船引町の気候	
3. 田村市船引町長外路行政区の現状.....	6
3.1. 田村市船引町長外路行政区の人口	
3.2. 学校、幼稚園・保育園、生活関連施設	
3.3. 交通手段	
4. 今年度の活動実績と評価.....	9
4.1. ミーティングの開催	
4.2. 第1回現地活動(9月)	
4.2.1. 薪の里ながとろ視察	
4.2.2. ビオトープ視察	
4.2.3. 三渡神社視察	
4.2.4. 移ヶ岳瑞峰平視察	
4.2.4. 「ムシムシランド」の視察、昆虫採集、昆虫の標本づくり体験	
4.3. 第2回現地活動(10月)	
4.3.1. 長外路公民館にて自主防災組織避難訓練活動支援と交流会	
4.3.2. 長外路城再生ワークショップ	
4.4. 「大学生と集落の協働による地域活性化事業」活動報告会	
5. 田村市船引町長外路行政区の抱える問題と課題.....	20
5.1. 実態調査が得られた問題点	
5.2. 取り組むべき課題	
6. 次年度の活動計画案.....	21
6.1. 長外路地区の魅力発信	
6.2. 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”における福島県復興支援物産展に出店	
6.3. はちみつなど地元産物のPR	
6.4. 長外路城跡再生、古民家再生への協力	
6.5. 生き物の図鑑づくり	
7. おわりに.....	22

1. はじめに

田村市船引町長外路地区を担当する「獨協大学地域活性化プロジェクト長外路チーム」は丹野悠太(国際環境経済学科4年)、日野原楓(同4年)、小池美月(代表：経済学科3年)、水口礼菜(同3年)、海沼秀(同2年)、妹尾陸矢(同2年)、土橋優陽(同2年)、桐谷鴻希(同2年)、塩田賢太郎(国際環境経済学科1年)の2学科9名から構成されている。

今年度は2回にわたって現地調査を行った。1回目の9月14日(土)・15日(日)の現地調査では「薪の里ながとろ」の視察を行い、長外路地区では薪の原料となる原木が豊富に有していることや、焚火、BBQなどのアウトドア体験が季節ごとの植物に囲まれながら楽しめることを学んだ。また、「ムシムシランド」で昆虫採集や標本づくりを体験し、地域の自然環境を活かした観光資源の魅力を感じた。さらに、ビオトープに関する講習では、生息する生物やその管理方法について学んだ。日本における絶滅危惧種を保護するためには、自然環境の維持や人間の積極的な保全活動が必要であるという意識を高める貴重な機会となった。また、田村市地域おこし協力隊の大口宗将氏(株式会社田村市常葉振興公社、学芸員)による講和を通じて、地域が抱える課題や可能性についての知識を深めることができた。

2回目の10月26日(土)・27日(日)の現地調査では自主防災組織避難訓練活動支援を行い、地域の方々との関係構築に努めた。その後、長外路城再生ワークショップへ参加し、作業を通して、地域資源の活用可能性についての視点を広げた。初年度である今年度は現地調査を通じて、自然豊かで様々な生き物や植物があること、住民の方々がフレンドリーであることが現地の魅力だと感じた。一方で、人口減少や観光施設の知名度が低いことなど課題が見えてきた。今後はワークショップを通じて交流人口を増やし、地区や観光施設の知名度向上につなげていきたいと考えている。

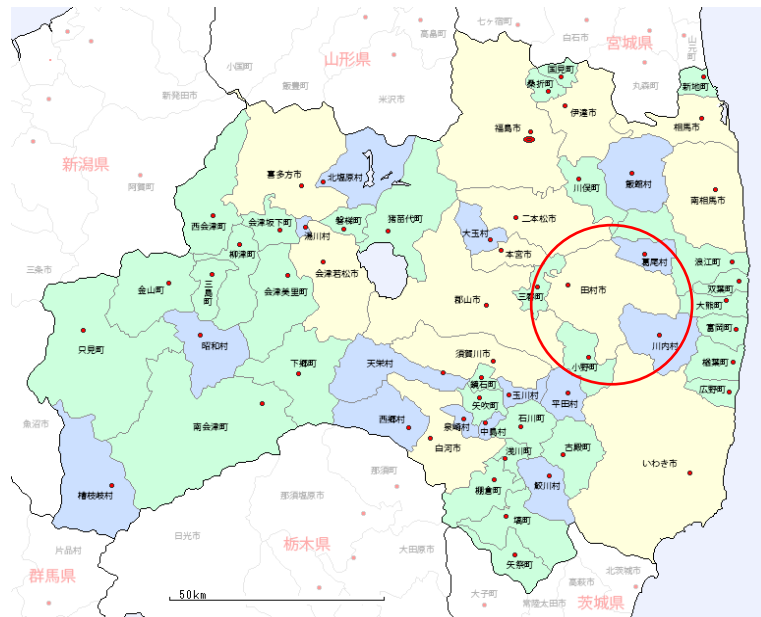
本報告書において、獨協大学地域活性化プロジェクト長外路チームにおける今年度の活動実績について報告する。第2節では、田村市船引町長外路行政区の概要を見た上で、第3節で長外路行政区の人口、学校や生活関連施設、交通手段について述べる。そして第4節では今年度の活動実績と評価について報告する。これらを踏まえて、第5節では長外路行政区の抱える問題と課題を明らかにし、次年度の活動計画案についてまとめる。

2. 田村市船引町長外路行政区の概要

2.1. 長外路行政区の位置

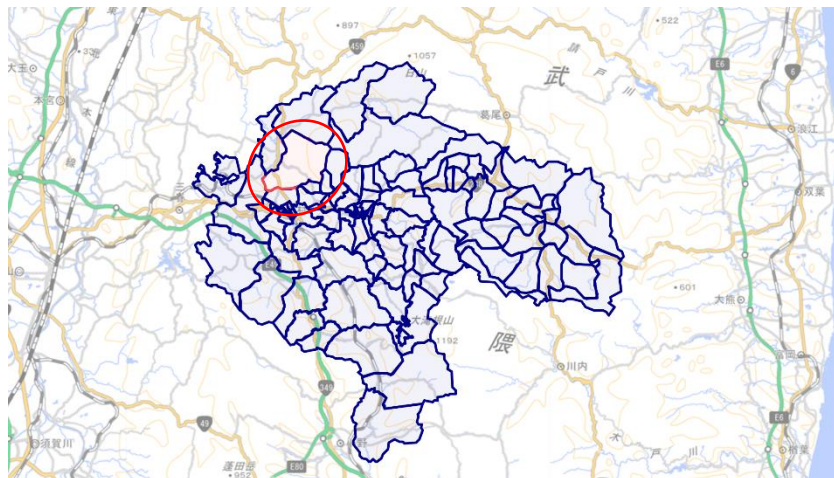
福島県田村市の位置は図表1の通りである。田村市船引町は田村市の北西端に位置しており、船引町には、船引地区、文珠地区、美山地区、瀬川地区、移地区、芦沢地区、七郷地区、要田地区の8地区がある。図表2は田村市における美山地区の位置を表しているが、美山地区は瀬川地区の南隣に位置し、長外路行政区は鹿又^{かのまた}1区、鹿又2区、鹿又3区と並んで、船引町美山地区を構成している。図表3のイラストを見ると、長外路行政区は美山地区の一番北の瀬川地区と接する場所にあることがわかる。

図表 1. 福島県田村市の位置



[出典]47 都道府県の地図「福島県の地図」(<https://uub.jp/47/fukushima/map.html>)を参照。

図表 2. 田村市船引町における美山地区の位置



[出典]「福島県田村市船引町長外路(072110090)|国勢調査町丁・字等別境界データセット」(以下の URL)より作成。(<https://geoshape.ex.nii.ac.jp/ka/resource/07/072110090.html>)

図表 3. 田村市船引町長外路行政区の位置



[出典] みやまびざん 美山美山物語作成委員会編「美山美山物語～移ヶ岳由来から～」(平成 22 年度福島県地域づくり総合支援事業)(2011 年 3 月)、2～3 ページより引用。

2.2. 田村市船引町美山地区の歴史

田村市船引町美山地区の歴史を見ておく¹。1646(天保 2)年 8 月より、三春城主秋田氏の所領として、北鹿又は小野鹿又村、長外路は小野長外路村と呼ばれていた。1889(明治 22)年、町村制の施行により、北鹿又村、長外路村が合併して田村郡美山村が発足した。1955(昭和 30)年に、船引町、文珠村、瀬川村、移村、芦沢村、七郷村の一部(堀越・遠山沢・永谷・櫛山・角沢)と合併し、改めて船引町が発足し、美山村は消滅した。現在は、美山地区に鹿又 1、鹿又 2、鹿又 3、長外路の各行政区に分かれている。船引町美山地区の変遷表は図表 3 の通りである。

図表 4 田村市船引町美山地区の変遷表

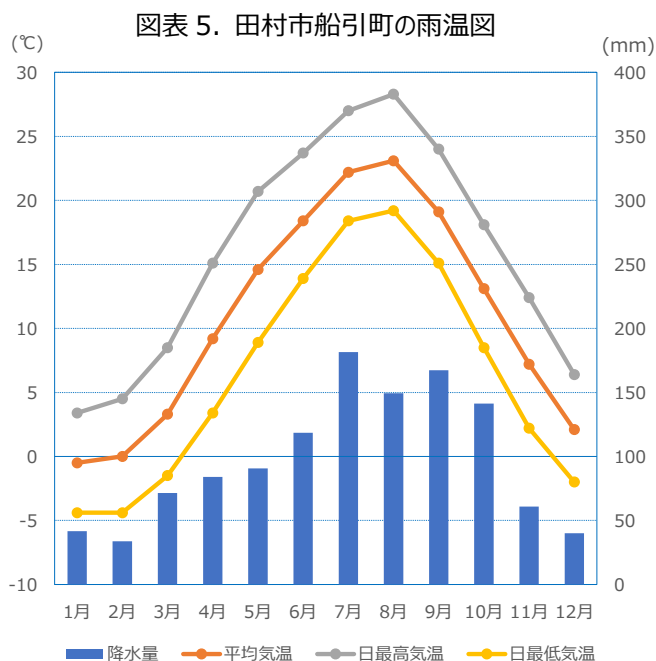
1889(明治 22)年 4 月 1 日以前	1889(明治 22)年 4 月 1 日	1955(昭和 30)年 4 月 1 日	2005(平成 17)年 3 月 1 日以降
北鹿又村	田村郡美山村	田村郡船引町	田村市船引町
長外路村			

[出典] Wikipedia「美山村(福島県)」(以下の URL)より作成。
(https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BE%8E%E5%B1%B1%E6%9D%91_%E7%A6%8F%E5%B3%B6%E7%9C%8C)

¹ 美山(みやま)美山(びざん)物語作成委員会編「美山美山物語～移ヶ岳由来から～」(平成 22 年度福島県地域づくり総合支援事業)(2011 年 3 月)、2 ページ「地名の由来」を参照。

2.3. 田村市船引町の気候

田村市の気候は、太平洋岸式気候に属しながらも、年間の気温較差が大きい。また降雨・降雪量は少ない内陸性気候の特徴を持っている。寒候期においても、連続した降雪期間は短い。図表 5 は田村市船引町の雨温図であり、1991～2020 年の平年値を示したものである。田村市は阿武隈高原の中央に位置し、船引町の気温は、田村市役所(田村市船引町船引字畑添 76 番地 2)で標高が 408m²、高原に位置することから夏期でも日最高气温の月平均が 30℃を超えない。冬期の日最低气温の月平均も-5℃を下回らず、船引町ではそれほどの冷え込みもなく、過ごしやすい気候のように見える。ただし、2024 年の日最高气温が 30℃を超えている真夏日は、6 月 31.2℃、7 月 34.2℃、8 月 34.5℃、9 月 33.5℃となっていて³、地球温暖化の影響が表れている。長外路行政区は標高が 475.7m と市役所の位置するところからさらに標高が高いので、もう少し気温の折れ線は下方に位置すると思われる。



統計期間: 1991～2020

[出典]気象庁ホームページ「船引(福島県)平年値(年・月ごとの値)主な要素」(以下の URL)を参照して作成。
https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/nml_amd_ym.php?prec_no=36&block_no=0294&year=2018&month=3&day=&view=p1

² こおりやま広域連携中枢都市圏「構成市町村データブック」(2020 年 1 月)(以下の URL)の「④田村市」を参照。<https://www.city.tamura.lg.jp/uploaded/attachment/20907.pdf>
田村市域全域でみると、平均標高 478m、最低標高 197m、最大標高 1,175m となっている。

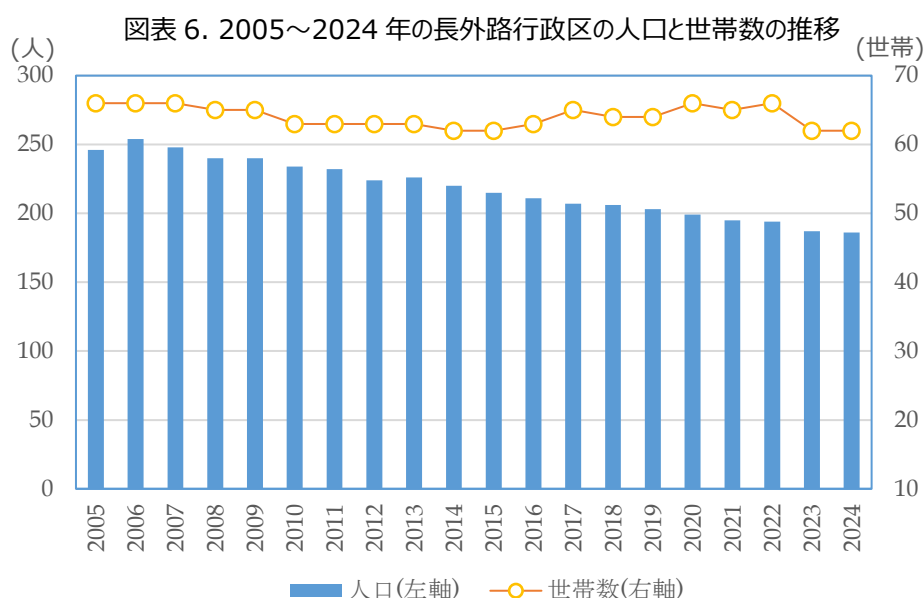
田村市地形図(以下の URL)を参照。<https://ja-jp.topographic-map.com/map-z69c3q/%E7%94%B0%E6%9D%91%E5%B8%82/?center=37.38568%2C140.56804>

³ 気象庁ホームページ「船引(福島県)2024 年(月ごとの値)主な要素」(以下の URL)を参照。
https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/monthly_a1.php?prec_no=36&block_no=0294&year=2024&month=&day=&view=

3. 田村市船引町長外路行政区の現状

3.1. 田村市船引町長外路行政区の人口

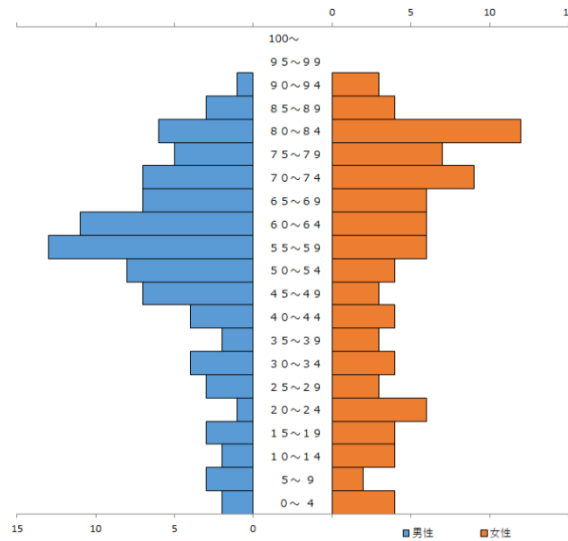
図表 6 は 2005 年以降の長外路行政区の人口推移を掲載している。長外路行政区における 2024(令和 6)年 10 月 1 日時点の人口は 186 人であり、男性が 92 名、女性が 94 名である。2005(平成 17)年以降の推移をみると、2005(平成 17)年の 246 人から 2006(平成 18)年には 254 人でピークを付けたのち減少の一途を辿り、2020(令和 2)年には 200 人を切って、人口減少に歯止めがかからない。また、長外路行政区の 2024(令和 6)年 10 月 1 日時点の総世帯数は 62 世帯であり、平均世帯人数はちょうど 3 人となっている。2005(平成 17)年以降の推移をみると、2005(平成 17)年の 66 世帯からほぼ横ばいで推移していて、人口減少ほどの減少は見られない。



[出典]田村市企画調整課提供の「田村市行政局及び行政区別人口、世帯一覧(H17～R6)」より作成。

図表 7 は、2024(令和 6)年 10 月 1 日時点の長外路行政区における人口ピラミッドである。男性は 55～64 歳の区分が多くなっているのに対して、女性は 80～84 歳が多くなっている。出産適齢期の 25～34 歳の女性が極端に少なくなっていることは、この地区に新生児がそれほど期待できないことを意味している。とくに男性 44 歳以下、女性の 54 歳以下の区分の人口が極端に少ないので、今後 10～30 年で急激に人口が減少してしまうことが予想される。

図表 7. 長外路行政区の人口ピラミッド(2024 年 10 月 1 日時点)



[出典]田村市企画調整課提供の「田村市住民基本台帳人口_10.1 人口(1 歳刻み)」より作成。

3.2. 学校、幼稚園・保育園、生活関連施設

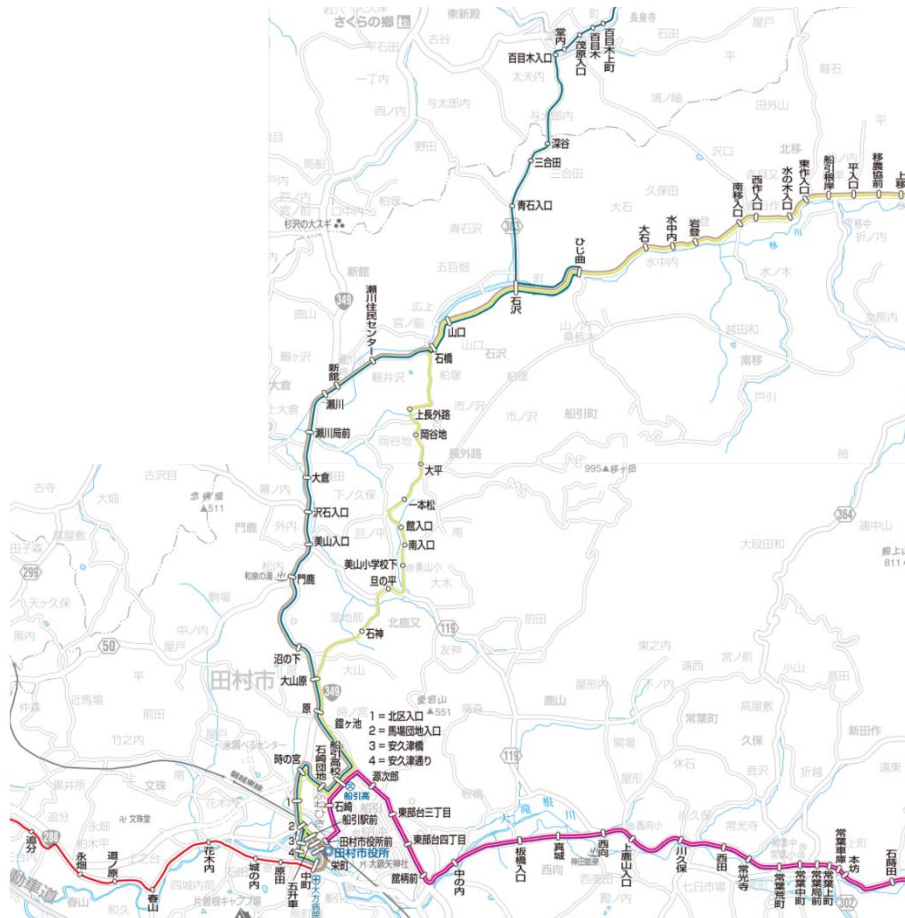
船引町長外路行政区には、学校や、幼稚園・保育園など子育て支援施設がなく、例えば小学校の場合は、田村市立美山小学校(田村市船引町北鹿又後和田 30)へバス通学している。田村市美山出張所(田村市船引町北鹿又下旦ノ平 107-1)も、美山小学校の近くにある。

生活関連施設は、船引町長外路行政区にはないため、自動車等での移動が必要となっていて、例えば、国道 349 号線沿道にあるセブンイレブン船引門鹿店(船引町門鹿高屋 184)、瀬川郵便局(船引町大倉上台 23-23)など、隣の瀬川地区まで行かなければいけない。

3.3. 交通手段

公共交通手段としては、福島交通による路線バスが運行されていて、図表 8 に示した、長外路行政区を通るバス路線は黄色の路線で、行政区内には「船引大平」「岡谷地」「上長外路」の 3 つのバス停がある。しかし、図表 9 に示した通り、1 日 1 往復のみの運行しておらず、地元の方々にとってみれば、自家用車がなければ生活は難しいというのが現状である。

図表 8 長外路行政区を通る路線バスの路線図



[出典]福島交通株式会社「福島交通路線図：三春・船引(二本松)」および「福島交通路線図：移」(以下の URL) を引用して作成。(https://busget.fukushim-koutu.co.jp/bus/map/03niho_12.html), (https://busget.fukushima-koutu.co.jp/bus/map/03niho_15.html#hunekiki)

図表 9 船引駅⇄長外路行政区内バス停の発着時刻・運賃

行先	上長外路	岡谷地	船引大平	船引駅前	所要時間	運賃
船引駅前	7:28 (8:00)*			7:48 (8:20)*	20 分	460 円
		7:29 (8:01)*			19 分	460 円
			7:30 (8:02)*		18 分	420 円

(注)*括弧内は祝休日(土曜、日曜、祝日)のダイヤ。

行先	船引駅前	船引大平	岡谷地	上長外路	所要時間	運賃
上移[長外路経由]	17:25	17:46			21 分	420 円
			17:47		22 分	460 円
				17:48	23 分	460 円

[出典]福島交通株式会社「発着時刻・運賃検索」(以下の URL)より作成。
(https://busget.fukushima-koutu.co.jp/fromto/#busget)

4. 今年度の活動実績と評価

4.1. ミーティングの開催

メンバー間や集落の方々との意思疎通を図るため、図表 10 の通り、オンラインで計 4 回のミーティングを行った。

図表 10. ミーティング開催

日付	内容	参加者
第 1 回 2024/9/11 オンライン	第 1 回現地活動前 最終確認のミーティング 現地活動にあたって、お世話になる区長や薪の里ながとろの園長との顔合わせ 長外路地区や施設の概要を聞いた。	現地の方：3 人 学生：5 人
第 2 回 2024/10/15 オンライン	第 2 回現地活動前 最終確認のミーティング 1 回目の現地活動の振り返りや交通手段、時間の確認	現地の方：3 人 学生：6 人
第 3 回 2025/1/12 オンライン	活動報告会に向けてのミーティング① 活動報告会に向け地域の課題、魅力や現地調査で得た情報の確認	学生：3 人
第 4 回 2025/1/14 オンライン	活動報告会に向けてのミーティング② 活動報告会で何を話すか、最終確認	学生：5 人

今年度は 9 月から始動し、9 月、10 月の現地調査に向けて長外路地区の方々とミーティングを重ねた。また、1 月は活動報告会に向けて学生のためのミーティングも行った。反省点として、Zoom でのミーティングの参加者にばらつきが生じていることがあり、メンバー内でコミュニケーションが不足しており、共通の認識で活動ができているかの不安感があった。また、長外路地区の方々とミーティングが 2 回のみであり、もっと積極的にコミュニケーションをとるべきであった。

4.2 第 1 回現地活動(9 月)

今年度は 2 回にわたり現地活動を実施した。1 回目の 9 月 14 日(土)・15 日(日)の現地調査には 7 名の学生が参加して、図表 11 の行程表のとおり、薪の里ながとろ、ビオトープ、三渡神社、移ヶ岳瑞峰平を視察し、2 日目には「ムシムシランド」を視察し、昆虫採集や標本づくりを体験した。

図表 11. 第 1 回現地活動の行程表

時程	行程
9 月 14 日(土) 10:05～10:58	東北新幹線 やまびこ 55 号(盛岡行) 大宮発～郡山着

10:13～11:04	東北新幹線 <u>やまびこ 177 号</u> (仙台行) 大宮発～郡山着
11:17～11:44	JR 磐越東線(小野新町行) 郡山駅発～船引駅着
11:44～ 13:10～	昼食 レストランドルフィン or エビス食堂 田村市役所駐車場（北側） ・地元スタッフによる送迎
13:30～	薪の里ながとろ ・佐久間行政區長ほか あいさつ
13:45～	薪の里ながとろ園内視察調査 ビオトープ視察調査
15:00～	三渡神社視察調査
16:00～	移ヶ岳瑞峰平視察調査
17:00	宿泊先：のうか民宿「みちくさ」へ ・地元スタッフによる送迎（佐藤さん・中山さん・鈴木さん）
-----	-----
17:10～17:36	JR 磐越東線(郡山行) 船引発～郡山着
18:06～19:03	東北新幹線 <u>やまびこ 152 号</u> (東京行) 郡山発～大宮着
9 月 15 日(日)	
7:00～	朝食
8:00	宿泊先：のうか民宿「みちくさ」を出発 ・地元スタッフによる送迎
8:30～	スカイパレスときわにて、昆虫の標本づくり体験
12:30～	スカイパレスときわにて昼食
14:00～	振り返り
14:30～	スカイパレスときわを出発 ・地元スタッフによる送迎
15:06～15:37	JR 磐越東線(郡山行) 船引発～郡山着
16:06～16:59	東北新幹線 <u>やまびこ 60 号</u> (東京行) 郡山発～大宮着

4.2.1 薪の里ながとろ視察

園内には季節ごとの花、山小屋、石窯などが整備されており、土地の形状を活かした自然の姿を楽しめる。園内には、休憩スペースもあり、自然散策や森林浴をしながら遊び場としてもよい場所である。季節によっては、ヤマシャクヤクという環境省のレッドリストの準絶滅危惧種と指定されている植物がある。薪の里ながとろから見られる移ヶ岳の四季の景観は美しく、その折々に咲く草花があり、五感で感じられるスポットである。

写真 1. 薪の里ながとろ園内の様子



写真 2. 季節の花の紹介



(注)メンバーが撮影(以下、とくに記載にないものはメンバーが撮影したもの)。

写真 3. 薪の里ながとろへの案内板



写真 4. 園内で見ることのできるあじさい



[出典]田村市ホームページ「薪の里ながとろ」(以下の URL)を参照。
(<https://www.city.tamura.lg.jp/soshiki/18/makinosato.html>)

4.2.2 ビオトープ視察

「げんごろうの里」では、ゲンゴロウに関するさまざまな情報を学ぶことができた。ゲンゴロウは現在、絶滅危惧種として認定されている。このため、ゲンゴロウの保護活動が重要

視されている。池の環境は、ゲンゴロウが生息できるように設計されている。水深は 40cm から 50cm に設定されており、昆虫などが住めるような環境が整えられている。このように自然環境を再現することによって、ゲンゴロウをはじめとする生き物たちが安心して生活できる場所を提供している。

また、ムシムシランドでお話を伺った田村市地域おこし協力隊の大口宗将氏によると、池では生き物の調査も行われており、その結果がデータとして残されており、これにより生態系の変化を把握し、適切な管理が行われているということである。ビオトープにはゲンゴロウやトンボなどの昆虫が生息しており、生物多様性の観察や保護活動が行われている。50cm ほどの水生昆虫であるサンショウモやギンヤンマに加え、冬にはカモやシラサギも姿を見せる。手作業によって生き物が繁殖しやすい環境を整え、草刈りや環境の維持管理にも力を入れている。これらの活動に必要な資金は、薪を販売して得た収益を充てている。

写真 5.げんごろうの里の様子



写真 6.ビオトープの様子



4.2.3 三渡神社視察

^{みわたり}三渡神社(田村市船引町長外路大黒内 129)を訪れ、歴史や現状についてお話を伺った。「美山美山物語」によると⁴、三渡神社は、もとは上の宮(稻荷社)と下の宮(見渡社)の二社であったが、明治の神社政策によって上の宮に並祀された。稻荷社は、別当加納院の祖先が相馬の蛭沢から勧請したと伝えられている。また、三春藩を通じて京都に願い出て神位を認可されたことも記録に残されている。見渡社は、江戸時代の初め頃に庄屋が村民と協議し、産土神を再興したものである。社殿を建立し、「三渡大明神」として崇め、国土安泰や五穀豊穡を

⁴ ^{みやまびざん}美山美山物語作成委員会編「美山美山物語～移ヶ岳由来から～」(平成 22 年度福島県地域づくり総合支援事業)(2011 年 3 月)、8 ページを参照。

祈願した。正月十四日の初田植祭では、御田植踊りが奉納される伝統がある。御祭神は天牟羅雲大神^{あめのむらくものおおかみ}。三渡神社は、福島県内でも田村地方に多く見られる⁵。

現在、三渡神社は人口減少や高齢化の影響を受け、管理人が不在となっているため、整備が十分に行えず、老朽化が進んでいる。このような状況の中で、神社の魅力を維持し、参拝者を増やすために努力している。特に、初詣や参拝に来る人々を増やしたいという願望を持っており、そのためには整備資金の確保が必要だと感じている。

神社の魅力の一つは、非常に細かく丁寧に刻まれた彫刻である。これほどまでに精緻な彫刻が施されている神社は他にはなく、その美しさは圧巻である。これらの彫刻は大正時代に掘られたもので、歴史的価値も高い。集落の方々は、この神社の彫刻を文化財として保存し、後世に伝えていきたいと考えており、そのためには周囲の木々を整え、光を当てることでより一層の魅力を引き出したいという願いもある。

また、11月には例大祭が行われることがあり、地域の人々にとっても重要な行事となっている。

写真 7. 三渡神社に刻まれた彫刻



写真 8. 三渡神社



4.2.4 移ヶ岳瑞峰平視察

移ヶ岳瑞峰平は、田村市船引町の北東に位置し、片曾根山・高柴山・鎌倉岳・日山とともに「ふねひき五山」の1つに数えられる名山である。端正な独立峰であり、眺望も見事であるが、南側には採石場跡が大きくえぐれた地形が広がっている。厳冬期には、山頂付近のナラの木を中心とした雑木林に白く美しい樹氷が付着し、幻想的な景観を楽しむことができ

⁵ 田村市文化財保護審議会監修『田村市史 6—田村市の神社仏閣【神社編】』田村市教育員会生涯学習課、2012年、21～26ページに三渡(見渡)神社が取り上げられている。

る。

また、移ヶ岳を経て美山村へと通じる道もあり、古くは後醍醐天皇の時代に「宇都具志山^{うつぐしやま}」と呼ばれていた⁶。「美山村」の村名の由来は「宇津具志山」の名前から転じて、美しい山、美山となった説が有力ということである⁷。

阿武隈高地の秀峰として知られ、田村地方の名勝地として古くから多くの登山者が訪れている。春には山野草、秋には紅葉と、四季折々の美しい風景が広がり、頂上からは晴天時に東側に海、西側に奥羽山脈を望むことができる。登山道も整備されており、四季の草花を愛でながら気軽に登山を楽しむことができる。

現在、観光協会が森林再生事業を行い、環境の整備を進めている。かつては釣り堀があり、サンショウウオも生息していたが、現在はソーラーパネルが設置されている。かつて御影石が採掘され、「石切り山」とも呼ばれていた歴史を持つ。憩いを求め訪れる人も多く、特に5月中旬には登山者が最も多くなり、記念バッジを集めるコレクターも訪れる。

写真 9. 移ヶ岳瑞穂平からみえる景色



写真 10. 放射能線量を測定している様子



移ヶ岳瑞峰平は、ハイキングや自然散策を楽しむことができる素晴らしい場所である。ここには、「周回コース①」、「往復コース」、「周回コース②」の3つの異なるハイキングコースが整備されており、それぞれが異なる魅力を持っている。これらのコースを歩きながら、訪れる人々は田村市の山々を一望できる展望台のようなスポットにたどり着くことができ、

⁶ 田村市ホームページ『『移ヶ岳』の読み方について』（以下の URL）を参照。

https://www.city.tamura.lg.jp/soshiki/2/shiminnoko-2203_3_01.html

⁷ 美山美山物語作成委員会編「美山美山物語～移ヶ岳由来から～」(平成 22 年度福島県地域づくり総合支援事業)(2011 年 3 月)、2 ページを参照。ここには、「宇都具志山」ではなく、「宇津具志山」と書かれている。

その景色はまさに絶景であるという。

しかし、現状としては、ハイキングの利用者が減少しているという課題がある。また、ハイキングコースの整備が間に合っていないため、アクセスや利用しやすさにおいて若干の問題が生じている状況という。これらの点は、地域の観光資源としてのポテンシャルを最大限に活かすために、改善が求められる。

写真 11. 移ヶ岳頂上からみえる景色



[出典] YAMAP「移ヶ岳 周回コース」(以下 URL)より引用。
(<https://yamap.com/mountains/13511>)

4.2.4 「ムシムシランド」の視察、昆虫採集、昆虫の標本づくり体験

田村市の観光名所である「ムシムシランド」を訪れ、施設内の昆虫展示ケースの清掃や、近くの山での昆虫探しを行った。その後、田村市地域おこし協力隊の大口宗将氏から昆虫の重要性や役割について話を伺った。田村市(旧常葉町)は、かつて葉タバコの生産が盛んな地域であり、その肥料となる腐葉土の中で大量のカブトムシの幼虫が育っていることが発見され、これをきっかけにカブトムシを活用した町おこし事業が始まった。1989 年には、日本初のカブトムシドーム「カブトムシ自然観察園」がオープンし、自然の中でカブトムシの生態を観察できる場を提供しており、現在では約 1000 匹ものカブトムシが放たれ、「触れ合い」をコンセプトにスタッフが昆虫の飼い方や生態について丁寧に説明し、展示昆虫や生きたカブトムシと直接触れ合う機会も提供している。

また、東日本大震災によって田村市も被害を受けたが、地域の活気を取り戻すために昆虫が再び注目され、幼虫や成虫の販売をはじめ、「インセクトツーリズム」として親子で昆虫採集を楽しむツアーも実施している。さらに、過去には東京都中野区にカブトムシの幼虫を送り、予想以上の売れ行きを記録したことがあり、2024 年春には「中野区花と緑の祭典 2024 春」に出展し、「カブトン焼き」(大判焼き)やカブトムシ幼虫 2 匹入りセットの販売、カブトムシの飼い方教室を開催するなど、都市部への発信にも力を入れている。

写真 12. 昆虫が展示されているケースを清掃している様子



写真 13. 昆虫探しの様子



写真 14. 「ムシムシランド」での標本づくりの様子



写真 15. 製作したカブトムシの標本



4.3. 第2回現地活動(10月)

第2回の現地活動は10月26日(土)・27日(日)に実施した。5名の学生が参加し、図表12の行程表の通り、自主防災組織避難訓練活動に参加し、地域の方々と交流を深めたほか、2日目には長外路城再生ワークショップへ参加し、作業に協力した。

図表 12 第 2 回現地活動の行程表

時程	行程
10 月 26 日(土)	
8:32～ 9:31	東北新幹線 やまびこ 127 号(仙台行) 大宮発～郡山着
9:40～10:09	JR 磐越東線(小野新町行) 郡山発～船引着
10:10～10:30	アテンドスタッフによる送迎(2 台)
10:30～15:00	長外路公民館 自主防災組織避難訓練活動支援（準備・昼食・訓練・反省会）
15:00～15:30	宿泊先(針湯荘)による送迎
15:30	宿泊先(針湯荘)チェックイン
18:00～	夕食
10 月 27 日(日)	
7:00	朝食
8:00	宿泊先(針湯荘)による送迎
8:30～	長外路城再生ワークショップ
12:00～	昼食(弁当)
13:00～	長外路城再生ワークショップ
15:30～	タクシー(2 台)による送迎
	JR 磐越東線(郡山行)
15:55～16:22	船引発～郡山着
	東北新幹線 やまびこ 216 号(東京行)
16:38～17:51	郡山発～大宮着

4.3.1. 長外路公民館にて自主防災組織避難訓練活動支援と交流会

10 月 26 日(土)に、郡山地方広域消防組合の協力のもと、長外路公民館で行われた「自主防災組織避難訓練活動の支援活動」後の交流会に参加し、地元の方々と一緒におにぎりを握り、BBQ を楽しんだ。地域の方々と共ににおにぎりを作り、食事を共にすることで、地域との関係構築の大切さを学んだ。また、BBQ を通じて季節ごとの植物に囲まれながらアウトドア体験を楽しむことができ、地域の魅力を再確認した。さらに、併せて住民の生活実態や意識調査を行い、地域が抱える課題を共有することができた。

写真 16, 17. 自主防災組織避難訓練活動支援の様子



写真 18. おにぎりを握る様子



写真 19. 住民の方々との BBQ で交流する様子



4.3.2. 長外路城再生ワークショップ

10月27日(日)には長外路城跡へ行き、田村市地域おこし協力隊の中山真波氏のお話を伺った。長外路城は、およそ150年前に建てられた古民家や農地、豊かな里山の自然が広がる静かな場所である。かつての農地や手つかずの森が残されており、中山氏は「自然再生」と「生物多様性の保全」をテーマに、地域の生態系を守りながら復興を目指す活動を行って、ここを「自然と歴史が息づくフィールド」として再生している。森や水辺の整備を進めることで、さまざまな動植物が息づく生態系の復活を目指している。現在は古民家の再生を進めており、将来的にはそこを活用してカフェを開く計画を立てている。2025年3月に協力隊を卒業した後も、「長外路城」跡地を再生の拠点とし、地域の農産物や資源を活用した取り組みや飲食事業を進めていく予定だという⁸。

長外路城再生ワークショップでは、大雨により削れた地面の強化作業を実施した。地面が崩れないよう、設置されていたブルーシートを撤去し、斜面にくいを数十本打つ作業に取り組んだ。

その後、「薪の里ながとろ」へ移動し、ブラックベリーの移植作業を行い、苗や実を傷つけないように取り出し、大きな穴を掘って埋め、上に土や枯れ葉を被せた。

⁸ Note「自然と歴史が交わる場所、長外路城への挑戦」(以下のURL)を参照。
(https://note.com/switch_fukushima/n/n877f3916520e)

写真 20. 長外路城跡再生ワークショップで作業の説明を受ける様子



写真 21. 設置されていたブルーシートを撤去する様子



写真 22. 斜面にいきを打つ様子



写真 23. ブラックベリー苗の移植の様子



写真 24. 中山真波氏との記念撮影



私たちが現地調査で訪れた際、古民家には掃除が行き届いておらず、人が住めるような状態ではなかった。そのため、壁の塗り直しを行うワークショップなどが実施されていた。また、地元の高校生と協力し、「バンブーバスケット」と呼ばれる竹を利用した花壇の作成も行われていた。

中山氏が大切にしているのは、地域の方々と共に長外路城跡地を守り、次の世代に受け継ぐこと。そのために、里山の自然に触れる機会を提供し、参加者が季節ごとの農作業や山の恵みを学べる場として活用している。さらに、自然と人が共生できる持続可能な環境づくりを推進し、今後は地域と都市の人々が交流しながら生物多様性について学ぶ場としての役割を強化していきたいと考えている。

4.4. 「大学生と集落の協働による地域活性化事業」活動報告会

2月8日(土)13:00～17:00に、杉妻会館4階「牡丹」・3階「百合」にて、「令和6年度大学生と集落の協働による地域活性化事業活動報告会」が開催され、小池美月、水口礼菜の2名が参加した。過疎・中山間地域を中心とした集落において活動する大学生グループにより、1年目の集落実態調査、2年目の集落活性化に向けた実証活動、3年目以降の地域活動の自走に向けた伴走支援等の活動をしてきた計21グループの発表が行われた。

長外路地区の活動を発表するだけでなく、同じ福島県で活動している他のグループと交流会を通して、他のグループのさまざまな事例を学ぶことができ、今後参考にしていきたいと思った。1年目の私たちにとって良い経験になった。

写真 25. 活動報告会の開催風景



5. 田村市船引町長外路行政区の抱える問題と課題

5.1. 実態調査から得られた問題点

田村市船引町長外路行政区には、ムシムシランドやビオトープといった自然を生かした

観光スポットが存在する。しかし、これらの地域の魅力が十分に地域外へ発信されておらず、観光客の増加につながっていない。その結果、少子高齢化や過疎化が進行し、地域の活気が失われつつある。

また、電車やバスといった公共交通機関が少なく、アクセスがしづらい点も課題の1つである。さらに、観光スポットの周辺には宿泊施設やコンビニが少なく、道路も狭いため、観光客にとって利便性の面で不安が残る。このような状況が、地域への訪問者数の減少につながっていると考えられる。

5.2. 取り組むべき課題

これらの課題を解決するためには、まず長外路地区の魅力を積極的に発信していく必要がある。自然や歴史、特産品など地域資源の魅力を広く伝え、地域の認知度を高めることで、観光客の増加を目指すことが求められる。

6. 次年度の活動計画案

6.1. 長外路地区の魅力発信

長外路地区の魅力を広く発信するため、若者と高齢者がそれぞれの得意分野を生かした取り組みを行う。若者は、SNSを活用して地域の魅力を発信する。自然や歴史、特産品、イベントなどをテーマにした動画を作成し、オンライン上で拡散することで、より多くの人々に長外路地区の魅力を知ってもらうことを目指す。一方、高齢者は、福島駅や郡山駅などの主要駅、道の駅といった公共施設にポスターを掲示し、チラシを設置することで、観光客に向けた情報提供を行う。地道な広報活動を継続し、地域の魅力を発信することが重要である。

6.2. 獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo”における福島県復興支援物産展に出店

獨協大学の環境週間“Earth Week Dokkyo”において、長外路地区の特産品を販売し、福島県の復興支援につなげる取り組みを行う。大学の学生や教職員を対象に、地域の魅力を伝えるPR活動を実施し、特産品の試食会や地域の歴史・文化を紹介する展示を企画することで、長外路地区の認知度向上を図る。

6.3. はちみつなど地元産物のPR

長外路地区で生産されるはちみつなどの特産品のPRを強化し、地域活性化につなげる。まず、地元の直売所や道の駅での販売を強化し、地元住民や観光客に向けた販売促進を行う。さらに、オンラインショップを活用することで、遠方の消費者にも特産品を届ける仕組みを整える。また、観光施設やカフェとコラボレーションし、特産品を活かした新たな商品開発を進めることで、地域ブランドの確立を目指す。

加えて、収穫体験イベントを実施し、観光資源としての活用を図る。実際に収穫を体験す

ることで、訪問者に地域の魅力を直接感じてもらい、地域産業への関心を高める機会を提供する。

6.4. 長外路城跡再生・古民家再生へ協力

田村市地域おこし協力隊の中山真波氏の活動に協力し、長外路城跡の再生や古民家の再生にも積極的に取り組む。地域の歴史的価値を活かしながら、観光資源として活用することで、新たな地域の魅力を創出する。歴史ある建造物を保全・再生し、訪問者が楽しめる施設として整備することが重要である。

6.5. 生き物の図鑑づくり

ビオトープやムシムシランドに生息する生き物を記録し、写真を活用した図鑑を制作する。それぞれの生き物の特徴や生息環境、観察のポイントをまとめることで、地域の自然環境を学ぶ教材として活用できる。さらに、この図鑑を地域住民や子どもたちを対象としたイベントに活用し、環境教育の場を提供する。また、図鑑をオンラインでも公開することで、遠方の人々にも長外路地区の自然の豊かさを伝え、地域への関心を高めることが期待される。

7. おわりに

本年度、私たち獨協大学地域活性化プロジェクト米山チームは、田村市船引町長外路区において地域活性化に向けた活動を展開してきた。現地視察や住民の皆様との対話を通じて、この地域が持つ豊かな自然や歴史、そして住民同士の強い結びつきを肌で感じる事ができた。一方で、少子高齢化や生活環境の変化に伴う課題も浮き彫りとなり、地域の持続的な発展のために、私たち大学生がどのように貢献できるのかを深く考える機会となった。公共交通機関が機能しておらず、2回目の現地活動が衆議院議員選挙と重なってしまい、地域の方々を送迎できずにやむを得ずタクシーを使用したことで、予算が足りなくなったことは、交通手段がないことの不便さを身をもって実感することとなった。

本年度の活動では、現地調査をもとに地域の魅力を再発見し、その情報発信や地域資源の活用に向けた提案を行った。特に、長外路城跡や古民家の再生、生き物の図鑑づくりといったプロジェクトは、地域の歴史や自然を活かしながら、住民と大学生が協力して取り組む意義のあるものと考えている。しかしながら、提案を実現するためには、住民の皆様とのさらなる対話や、地域のニーズに即した具体的な計画が必要である。そのため、次年度はこれらの課題を踏まえ、地域の方々と密に連携しながら、より実効性のある活動を展開していくことが求められる。

私たちは、これまでの活動を通じて「地域活性化は一方的な支援ではなく、協働によって成り立つ」ということを実感した。地域の皆様の温かいご支援に感謝しつつ、今後も大学生としての視点を活かしながら、長外路行政区の活性化に向けて貢献していきたい。

謝辞

今年度は、何度もオンライン・ミーティングの開催や現地調査の受け入れもしていただいた。長外路行政区長の佐久間嘉彦様、里山再生プロジェクトの田村市市議会議員・佐藤重実様、薪の里ながとろ園主の佐藤満雄様、田村市地域おこし協力隊の中山真波さん、そして2017年度田村市総務部協働まちづくり課にいた当時からずっと私たちの活動の場を整えてくださっている鈴木俊栄氏には、本当にお世話になりました。また、福島県地域振興課ならびに社会システム株式会社の皆さまをはじめとし、本事業に関わったすべての方にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

図表 5. 地域振興応援物産展の開催

実施企画名	獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2021～Winter～”における地域振興応援物産展の開催
開催日	2021 年 12 月 6 日(月)～12 月 10 日(金) 昼休み(11:30～13:00)
開催場所	獨協大学学生センター雄飛ホールの北側、および雄飛ホール北側外の親水護岸の上
企画概要	次の 3 つの目的を掲げて Earth Week Dokkyo 2021～Winter～において地域振興応援物産展を開催し、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」の他のグループと合同で出品し、瀬川産の農産品や特産品(エゴマ油、そば粉、はちみつ、キウイフルーツ、アピオス、ハヤトウリ、サトイモ、米)の販売を行った(写真 2)。 ・ 田村市船引町瀬川地区に対する認知度を向上させる。 ・ 獨協大学セガワ応援隊の認知度も向上させる。 ・ 田村市船引町瀬川地区の特産物を通し、瀬川地区や本事業に対する興味を持ってもらう。 企画内容は以下の通りである。 福島県「大学生と集落の協働による地域活性化事業」に採択されている 4 つの集落では、過疎化や高齢化が進み、集落の活性化が喫緊の課題となっている。これに対して私たち獨協大学の 4 グループは、よそ者である外からの客観的な視点、若者である大学生の新しい視点や行動力を活用して集落の活性化に向けて取り組んでいる。このような獨協大学の取り組みを一人でも多くの学生に知ってもらい、学内でこの事業を継承していきたい。また福島県の農産物の安心安全を広く認識してもらいたい。 本学で福島県や地元草加・越谷の農産物・特産物を販売することによって、これらの地域を PR したい。また、さまざまな地域で活動している学生メンバーが一堂に会して物産展を開催することで、各地域の枠を越えたヨコの繋がりを創出していきたい。
評価	・ コロナ禍の開催、そして 2 年ぶりの開催であったが、無事開催することができた。 ・ 前日にチラシを近隣住民に届けた広報が功を奏し、感染対策のため、学外の方は外での販売になったが、それでも多くの来場者に来ていただいた。 ・ 集落の方々にお願ひし、作っていただいたレシピをもとに案内することで、来場者の方々が購入しやすくなった。 ・ 獨協大学周辺の地域住民の瀬川地区に対する認知度向上に貢献することができた。 ・ 学生も手に取りやすい価格設定であったため、学生が購入してもらうことができた。

	・物産展の売上を瀬川地区に還元することができた。 ・他の地域活性化プロジェクトチームと意見交換ができた。
今後の課題・展望	・来場者に瀬川地区、販売している物品の説明やセガワ応援隊の活動を PR できるようなリーフレットを事前に作成しておくべきであった。 ・袋に入ったままの商品の撮影は袋が光ってしまって商品がきれいに撮影できなかった。宣伝として SNS にアップしたり報告書に掲載するための写真撮影は、商品を一度袋から出して撮影するとよかった。 ・Earth Week Dokkyo 期間だけでなく、雄飛祭など開催日を増やす。 ・定期開催をすることで、商品を販売するだけでなく、活動も知ってもらいたい。 ・今回は、コロナ禍のため、学内での販売であったが、次年度は「獨協大学前」駅や松原団地記念公園での開催も検討する。 ・今年度は一度も現地に行けず、販売をすることになったが、現地で生産者の方々と話し、商品の知識・商品ができる過程を学んだ上で販売する。 ・「そば粉」については自分たちで現地へ行きそば打ちをし、麺の状態にして販売することも検討する。